



# Desert Wind

## ■■ 『愛し合う教会を作ろう』 ■■

LVJCC 牧師: 鶴田健次

ある対談集の中に、「派遣」社員として働く若者たちの過酷な状況が記されていました。派遣業界では、労働者を派遣することを「弾を込める」と言うそうです。彼らを人間として見えない言い方です。だからこそムチャクチャな働かせ方ができるのだろーと思ひます。たとえば、派遣で働く人の多い引越し業界でのことですが、現場で指示を出す一人の正社員が、派遣社員をスタンガンで脅しながら働かせていたそうです。

人を人として見ていない。人間の価値を重んじていない。そういう問題を抱えた社会で、平和の使者として遣わされている教会にとって、クリスチャン同士が互いに愛し合い、尊重し合い、助け合い、愛し合う人々の群れを広げていくことは非常に重要なことであろうと思ひます。

### ① 愛し合うことの根拠

十字架を目前にされたイエス様は、愛する弟子たちに、「あなたがたに新しい戒めを与えましょう」と言われました。そして、主の弟子である私たちが守るべき最も大切な戒めとして、「互いに愛し合うべきこと」を教えられたのです。つまり、私たちが互いに愛し合うのは、イエス様がそのような愛で私たちを愛して下さった、ということがその原点であるということです。

ですから、イエス様にそのような愛で愛されていることを心に留め、その事実を他の人々と「共有すること」が互いに愛し合うということです。言い方を変えれば、イエス様に愛され、イエス様を愛するということを「共有すること」によって、イエス様と一緒に愛し、イエス様に一緒に愛されるという事の中に、互いに愛し合うということが実現していくということです。

ヨハネは、その手紙の中で、「主は、わたしたちのために命を捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った」と言いました。命を捨てるほどにこの私を愛して下さったイエ

ス様の愛を知るときに、私もイエス様を愛さずにはいられなくなり、また、その同じイエス様の愛がこの人にも向けられているというところに、私がこの人を愛していく根拠があるのです。

### ② 一致を追い求める教会

私たちはよく教会の一致を祈り求めますが、考えてみれば、教会は一致していないことより、一致していることのほうが多いのです。同意していないことより、同意していることの方が多いのです。しかし、一致していないわずかのことに集中してしまうという悪い癖を持っています。そうするとどうなるでしょうか。一致のきずなが破られて、不一致が起こるのです。

パウロは言いました。「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい」。どのようにして一致を保つのでしょうか。平和のきずなで結ばれるようにするのです。具体的には、相手の良い所を探し、ほめ合うことです。ほめることは相手を認めることです。愛するとは相手を赦し、認め、受け入れ、尊敬することです。私たちの一般的な性質では、これらのことはできません。しかし、私たちの心の中に住んでいて下さる聖霊様が、私たちを変えて下さるのです。

### ③ 愛を実践する教会

イエス様は、この新しい戒めを与えられた後、十字架にかかり、墓に葬られ、三日目に復活されると、40日間、弟子たちに現れますが、やがて彼らの見ている前で、天に昇って行かれます。その時、弟子たちはただ茫然と見上げることしかできません。何故、イエス様は弟子たちを連れて、天国に帰ることをされなかったのでしょうか。それは、弟子たち、つまり地上にある私たち教会に果たすべき大切な使命があったからです。

その使命とは、イエス様が私たちを愛されたように、私たちが互いに愛し合うことです。しかも、「もし、あなたがたの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです」と言われたように、キリストの愛をもって愛し合うことは、この世の人が私たち教会を通して神を知るための最良の証しになるのです。

## DREAMS COME TRUE

- ✠ 教会堂の建設
- ✠ 敬老ホームの設立
- ✠ 幼稚園の設立

### お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救い
- 各スモールグループのオイコス伝道のために
- 入門者クラスのために山口兄、福留兄、石原兄姉
- 英語部の働きのために
- ユースミニストリー、サンデースクールのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃんの眼、倉田一徳さんの脳腫瘍、小林豊兄の癌、神崎先生の日、植木ケン兄の糖尿病、新井雅之兄の癌、中村裕二先生の直腸癌、藤永君江姉の癌、Simeon 兄の癌、スカイ君の心臓、工藤忠行兄の癌

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。  
lvjccdw@hotmail.co.jp  
発行: 鶴田健次  
編集: 松岡みどり

## 神様に人生を賭けて

証し: 一美 坂東 スレイクス

先月の父坂東一良の証しに引き続き、今回は娘の私が証し出来ることを神様に感謝します。ハレルヤ！主にあって感謝しても足りない毎日を送っている一美坂東スレイクスです。皆さんすでにご存知の方も多いと思いますが、私が神様に導かれた日のことをお話したいと思ひます。忘れもしません。2006年の4月19日のことです。みどり姉妹に、中川健一先生の特別講演会のお誘いを受けました。二度ほどラスベガス教会に来たことはありましたが、それほど興味もなく、行けたら行くねと返事をただけでした。小学生の時、好きな男の子がクリスチャンだったので、チャーチに毎週行ってたという過去(なんという理由)があったので、ぼんやりとはありましたが、神様の存在、天国のことはわかっていました。ですから、初めてみどり姉妹と出会ったのも日本語バイブル study の集いでした。

日曜礼拝にも誘われていましたが、私の dayoff は、月曜日と火曜日だったので、日曜礼拝には行くことができませんでした。ゴールドコーストカジノで朝10時から夕方6時まで、poker dealer をしていました。その日も、時間が間に合ったら行くねと言った私に、「だめ、絶対に来ないと！中川先生はなかなかお目にかかれないの。何年も予定が詰まっていたらラスベガスに来てくださるの。来ないとだめよ！」みどり姉妹がそれほどまでに言う人とは思ったものの、「分かった、分かった」と返事をただけでした。朝のトーナメントも終わって、cashgame が始まってなぜか私のテーブルだけが暇で、お客がすぐに帰ってしまいました。2時半にはテーブルをしめて、ポスに帰っていいよと言われました。いつもは5時まで忙しいのに、、、家に戻り、講演会のことを思い出し、シャワーを取って出かけました。すでに沢山の人が来ていて、みどり姉妹に「よく来たね」と言われ、とてもよい席に案内されました。中川先生は皇太子様に似ていて、大阪出身のせいか、お話がとても面白くてどんどんのめりこんでいきました。先生がーツ橋大学出身と聞いて、私がいとも遊んでいた近所の大学で、とても懐かしく、次に落語家の露野五郎改め五郎衛さんが、バプテスマを受けたとの事。え？うりさんのお父さんが？うりさんこと綾川文代さんは、大阪のお友達で、お互いに家も行ったたり来たりの仲でしたが、私がラスベガスに来てからは疎遠に

なっていました。私が大阪で交通事故にあった時もいろいろと助けてくれたことを覚えています。五郎衛師匠がバプテスマ！驚きとともになぜかそれならば私もという思ひが、、、最後に、先生が絶対にギャンブルに負けない方法をお教えしようと言われました。そんな事はあり得ないと思ひていた私にあなたのすべてを神様にかけなさい。勝利の人生を得ることが出来ます！と。なぜだかわかりませんが、その言葉に「はい！かけます！」と手を挙げてしまいました。

勝利と言った言葉に引かれたのでしょうか？その日はもうなんだか夢の中の出来事のように、あれよあれよというまに、皆さんのままで、紹介され祝福され、これからは兄弟姉妹だねと声をかけられたりしている私に中川先生は「これは偶然ではないんだよ。すべて神様のご計画なんだよ」と言われました。みどり姉妹の驚いた顔は忘れられません。

その後、鶴田先生の初心者クラスを受けて、罪のこと、キリストの復活のこと、一から学びました。神様がご自分の独り子を私達の罪の為に捧げられたこと、子供の親となった今、改めてその犠牲の大きさを知り、涙が止まりません。そうこうしているうちに、休みも日曜と月曜になりました。その年の7月30日に、バプテスマを受け生まれ変わりました。

その後、両親を呼び寄せ、結婚もし、両親も救われて、主に在る家族として日々過ごしています。今年の6月には従妹のミミも救われて、クリスチャンとしての歩みを始めました。救われる前の私は、嫌なお客に文句を言ったり、小さな事にいちいち悩んだりしていました。今はそんな事はなくなり毎日楽しく働いています。あのお客さんも神様に愛されていると思うと大切な思ひがわいてきます。

「だから、明日のことを思わずらうな。あすのことは、明日自身が思わずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である」と聖書の御言葉にあるように、何も心配がありません。これからも私たち家族が感謝の日々を送り勝利の人生を全うできたらと思ひます。そしてこのようなすばらしい恵みを私の回りにいる方々に伝えたいです。

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16-33)



## 編集室・気まま便り

昨日夫は白内障の手術を受けた。病院嫌いの夫は、視力が弱まる右目をそのままにしている内に、左右のバランスが極端に違ってきたせいでよく段差を踏み外したりしていた。カレンダーの大きい数字も見えにくかったそうだ。例えてみれば右目に幕がかかったような感じだったらしい。「失明するかもしれない」と内心恐れていたのだろう、とうとう重い腰を上げて病院へ行って検査を受けた。白内障という診断結果を聞いた時には、失明の危機から免れられたと安堵したに違いない。今日は手術から2日目。まだ回復は十分ではないが、それでも「まるで新しい目もらったようだ」と言って世の中クリアーに見えることを「素晴らしい」と喜んでいる。お祈りに覚えてくださった兄姉姉妹に感謝。医学の発展を導いてくださった神様に感謝。夫に新しい目を与えてくださった神様に感謝です。